

甲 第 号

経堂 篤史 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	田中 利洋
論文審査担当者	委員	教授	細野 光治
	委員(指導教員)	准教授	渡邊 真言

主論文

Post-Stent Optical Coherence Tomography Findings at Index Percutaneous Coronary Intervention  
— Characteristics Related to Subsequent Stent Thrombosis —

経皮的冠動脈インターベンションにおけるステント血栓症発症に特徴的なステント留  
置後の光干渉断層法の冠動脈内の所見

Atsushi Kyodo, Makoto Watanabe, Akihiko Okamura, Saki Iwai, Azusa Sakagami,  
Kazutaka Nogi, Daisuke Kamon, Yukihiro Hashimoto, Tomoya Ueda, Tsuneari Soeda,  
Hiroyuki Okura, Yoshihiko Saito.

Post-Stent Optical Coherence Tomography Findings at Index Percutaneous Coronary  
Intervention - Characteristics Related to Subsequent Stent Thrombosis. Circulation  
Journal. 2021 May 25;85(6):857-866.

## 論文審査の要旨

ステント血栓症は薬剤溶出ステントの進化と共に頻度は少なくなっているものの、依然として高い致死率を有する PCI 後の重篤な合併症である。本研究では冠動脈ステント留置直後の OCT 所見とステント血栓症との関連について検討した。Index PCI で OCT が実施されたステント血栓症 15 例と PCI 後 5 年間ステント血栓症を発症していない 70 例で Index PCI でのステント留置直後 OCT 所見を比較した。本研究では Index PCI でのステント留置後 OCT 所見で大きい角度 ( $180^{\circ}$  以上) を有する Irregular protrusion が将来ステント血栓症を発症する特徴的な所見であることを報告した。公聴会の質疑応答では、最近のガイドラインでは PCI 後の 2 剤の抗血小板剤 (DAPT) の投与期間を決定する際に血栓リスクよりも出血リスクを考慮することが推奨されているが、High リスクの Irregular protrusion を認める症例で、出血リスクが低ければ、1 年間は DAPT を継続したほうがいいのではないかという意見が述べられた。本研究はステント血栓症の病因として Irregular protrusion の関与を報告した初めての研究であり、独創性や臨床への応用、さらには今後の発展が期待できることから、学位論文として適当であると判断した。

## 参 考 論 文

1. Clinical Impact of Irregular Protrusion Angle After Coronary Stenting at Culprit Lesions With ST-Elevation Myocardial Infarction - An Intravascular Optical Coherence Tomography Study.

Atsushi Kyodo, Tsuneari Soeda, Akihiko Okamura, Saki Iwai, Azusa Sakagami, Kazutaka Nogi, Daisuke Kamon, Yukihiro Hashimoto, Tomoya Ueda, Makoto Watanabe, Yoshihiko Saito.

Circulation Report. 2021 Jul 9;3(8):431-439.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに循環器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和5年3月7日

学位審査委員長

画像診断・低侵襲治療学

教授 田中 利洋

学位審査委員

循環・呼吸機能制御医学

教授 細野 光治

学位審査委員(指導教員)

循環器病態制御医学

准教授 渡邊 真言